

第 4 学 年 道 徳 科 学 習 指 導 案

4 年 1 組 指 導 者 森 重 孝 介

主 題 きまりを守るとは（雨のバス停留所で）

1 本主題でめざす子どもの姿について

対象と向き合う子どもの姿【対】	自己と向き合う子どもの姿【自】	他者と向き合う子どもの姿【他】
○きまりの意義について、自分自身とのかかわりの中で繰り返し考えている。	○きまりに対する今までの自分の考え方をみつめ、これからの自分の向き合い方について考えを深めようとしている。	○自分にとってよりよい生き方につながるよう、きまりについての仲間の考えのよさを見出している。

2 めざす子どもの姿を実現するために

本学級の子どもたちは、学校内外におけるきまりを意識しながら生活している。このような子どもたちが、きまりに対する今までの自分の考え方を基に、きまりの意義について話し合い、自己の生き方について考える学習に取り組む。このことは、子どもたちが今後一人の人間として歩む中で、規則を尊重しようとする態度を培うことにつながるであろう。

本主題では、内容項目「規則の尊重」をねらいとして学習する。本教材「雨のバス停留所で」では、他の人たちが軒下で並んでいるにもかかわらず、よし子がバスに先んじて行こうとすることに共感する子どもがいるであろう。また、母親がよし子に何も言わずにだまっていることに疑問をもつことも予想される。きまりに関する事象に対して、子どもたちは、登場人物の言動の理由を多面的・多角的に考えたり、きまりを守ることと守らないことの違いについて比較したりしながら、きまりの意義について考えていくであろう。その際、自分の感じ方や生活経験を交えながら考えることを大切にしたい。そうすることで、きまりの意義を自分自身とのかかわりの中で考えることができるようになるからである。

そこで、以下のような支援を具体化し、本主題でめざす子どもの姿の実現を図る。

- 列に並ぶことと並ばないことを比較するよう促す。そうすることで、きまりの意義をよりよい自分や人間関係づくりと関連付けて考えることができるようにする。【対】
- 「分からない」「仕方ない」という発言に対して、「それでよいのだろうか」と問い返し、きまりを守ることや守らないことで起こる状態を話し合うよう促す。そうすることで、仲間と思いを共有しながら、きまりの意義について考えることができるようにする。
- 授業の終末には、「自分」をキーワードに学びを振り返る場を設ける。そうすることで、きまりに対する今までの自分の考え方をみつめ、これからの自分の向き合い方について考えることができるようにする。【自】

3 本時における評価の視点

多面的・多角的な見方	自分自身とのかかわり
○きまりを守ることと守らないことの違いについて考えようとしている。	○きまりの意義について、自分自身の生活経験を交えながら考えようとしている。

4 本時案 【令和元年11月22日 10:25～11:10 4年1組教室】

- (1) ねらい きまりを守ることと守らないことの違いについて話し合うことをとおして、きまりを守ることが守らないことよりもよりよい自分や人間関係をつくるものであることに気付き、きまりを守ろうとする態度を培う。

(2) 学習過程※下線は3つの向き合う姿が表れている子どもの意識

学習活動・学習内容	子どもの意識	○教師の支援
-----------	--------	--------

<p>1 きまりについて想起する。(5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きまりを守る人 <p>2 きまりを守ることについて話し合う。(35分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きまりを守れなかった人の思い ・きまりを守っていた人の思い ・利己心 ・きまりが人間関係に与える影響 ・きまりの意義 <p>3 本時の学びを振り返る。(5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までの自分 ・これからの自分 	<ul style="list-style-type: none"> ・きまりを守る人について考えるのか。 ・みんなのことを考えている人だね。 ・まじめな人かな。 ・よし子さん、席に座りたかったのだね。 ・お母さん、怒っていたよ。でもだまっていたのはなぜだろう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>どうしてきまりを守らなかったのかな</p> </div> <p>A自分で考えてほしかったのかな。よし子さん、どんなことを考えていたのだろうね。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「お母さん、ごめんなさい」かな。 ・「雨宿りしている人から先に並ぶことなんて、分からないよ」だよ。 <p>Bう～ん。分からないのは仕方ないよね。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>それでよいのだろうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・分からないままだと、とにかく早くバス停に並べばよいということになるよ。 <p>Aそれだと、けがをするかもしれないし、車いすの人が座れないかもしれない。【他】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>よしこさんはどうすればよかったの。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・早く座りたいという気持ちを抑えないといけなかったよ。 ・雨宿りのときに、よしこさんが周りのことを考えていたらよかったね。 ・<u>並ばないと、自分が思っているよりも多くの人に迷惑をかけてしまうのだね。</u>【対】 ・もし座れなくてもきまりを守っていれば納得できるし、きまりを守る意味があるよね。 <p>Bきまりって、みんなのためにもなるし、自分のためにもなるのだね。【自】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕方ないと考えていた自分がいたよ。もっときまりを知っておくとよいよね。 ・並ぶこと以外にも学んだことが生かせるきまりがあるのかな。これからもきまりについて考えながら、過ごしていこうよ。 	<p>○「分からない」「仕方ない」という発言に対して、「それでよいのだろうか」と問い返し、きまりを守ることや守らないことで起こる状態を話し合うよう促すことで、仲間と思いを共有しながら、きまりの意義について考えることができるようにする。</p> <p style="text-align: right;">【他】</p> <p>○列に並ぶことと並ばないことを比較するよう促すことで、きまりの意義をよりよい自分や人間関係づくりと関連付けて考えることができるようにする。【対】</p> <p>○授業で学んだことを基に、以下の観点で振り返るよう促すことで、きまりに対する今までの考え方を見つめ、これからの向き合い方を考えることができるようにする。【自】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までの自分 ・これからの自分
---	--	--

(3) 板書計画

